

# きんもくせい

病院だより

vol.98

令和3年  
7月号

## あなたのお悩み、ご相談ください 「アレルギー疾患研究センター」開設



▲パッチテスト（かぶれの原因を確認する方法）をするアレルギー疾患研究センター長の戸倉医師

「アレルギー」という言葉。よく耳にしますね。そもそも「アレルギー」とは一体何なのでしょう。私たちの体には、細菌・ウィルス・寄生虫などの感染性微生物や異物などから、身を守るための「免疫」という仕組みが備わっています。この免疫の働きが、何らかの原因で異常を起し、くしゃみ、発疹、呼吸困難などの症状を起してしまう状態が「アレルギー」です。アレルギー疾患には、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、薬剤アレルギー、結膜炎などいろいろあります。

今や現代病のひとつともいわれるアレルギー疾患。日本国内の約3人に1人が何らかのアレルギー疾患に罹<sup>かか</sup>っているとも言われています。皆さまのお悩みを解決するべく、当院では6月から「アレルギー疾患研究センター」を開設しました。今月は、アレルギー疾患研究センター長が皮膚疾患とその治療について、詳しく解説します。

# 「アレルギー疾患研究センター」を開設

アレルギー疾患には、気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、薬剤アレルギー、結膜炎などいろいろあります。患者さまによっては複数のアレルギー疾患を患うこともあり、多くの診療科が連携し治療をすることもあります。

そこで、当院では、各科の診療を必要に応じて結び付け、さらに研究を行うことで、中東遠医療圏のアレルギー治療を支えることを目的とし、令和3年6月から「アレルギー疾患研究センター」を立ち上げました。

アレルギーによる症状でお悩みの方は、一度、当院へご相談ください。

## 【対象となる診療科・疾患】

- アレルギーによる症状が特定されている方 ⇒ 各診療科へ
- 特定が難しい方・皮膚症状の方 ⇒ 皮膚科・皮膚腫瘍科へ

診療科	疾患
呼吸器内科	喘息、呼吸器症状が主な特別なアレルギー疾患で15歳以上(高校生以上)の場合
小児科	食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息、特別なアレルギー疾患で15歳未満(中学生まで)の場合
皮膚科・ 皮膚腫瘍科	アトピー性皮膚炎、じんま疹、薬疹、接触皮膚炎、金属アレルギー、食物アレルギー(花粉-食物アレルギー症候群PFAS)、皮膚症状が主な特別なアレルギー疾患で15歳以上(高校生以上)の場合
耳鼻いんこう科	アレルギー性鼻炎(花粉症)、副鼻腔炎
眼科	結膜炎、眼症状が主な特別なアレルギー疾患
総合内科	主に漢方外来で対応

⚠ 当院を受診される場合は、原則、他の医療機関からの紹介状が必要です。

小児科、皮膚科・皮膚腫瘍科、耳鼻いんこう科は紹介状がなくても受診することができますが、紹介状をお持ちでない場合は、別途「特定初診料 5,500円(税込)」をご負担いただきます。また、大変長くお待ちいただく場合や当日の診察状況によっては受診できない場合がありますのでご了承ください。

教えて、先生!

## アトピー性皮膚炎と乾癬<sup>かんせん</sup>の治療

皮膚のトラブルに悩まされている方も多いのではないのでしょうか。

そこで今回は、浜松医科大学の教授を退任し、今年度から当院のアレルギー疾患研究センター長として就任された戸倉先生に、皮膚疾患についてお話を伺いました。

参与 兼 皮膚科・皮膚腫瘍科診療部長 兼 アレルギー疾患研究センター長

とくら よしき  
戸倉 新樹 医師



## アトピー性皮膚炎などのアレルギー性皮膚疾患

アトピー性皮膚炎とは

アトピー性皮膚炎は子どもの病気でも大人の病気でもあります。乳児では6人に1人がアトピー性皮膚炎と言われ、それくらいよく見かける病気です。ただ、かなりの患者さまは成長とともに改善し、大人になるとほとんど治療が必要でなくなる方もいます。

この病気の本質は、乾燥肌(ドライスキン)に伴

い、皮膚のバリア機能が低下していることにあります。バリア破綻により外界からさまざまな物質が皮膚に侵入し、アレルギー反応やかゆみが起こり、さらにこの反応がバリア障害を助長します。つまりバリア障害(乾燥肌)、アレルギー反応、かゆみが相互に誘い合って悪循環を招いているのです。

折れ曲がる場所の湿疹



舌なめずり皮膚炎



▲ アトピー性皮膚炎

### どうして湿疹が生じるのか

皮膚のバリアは外からのものが皮膚を通過して体の中に入らないようにしています。バリアは皮膚の表面にある0.02mm程度の厚さをもつ角層（化粧品業界では角質層と言います）が担っています。こんなに薄い、言ってみればアカの部分の装置が、タンパク質のアレルゲン、化学物質、バイ菌、紫外線から身を守ってくれているわけです。

アレルゲンが角層を通過して侵入して来た場合、皮膚炎を起こします。これは炎症を起こしてまでもアレルゲンを排除しようとする反応で、トカゲの尻尾切りに例えられます。例えば漆かぶれは皮膚炎を起こしてまでも漆が体の中に入らないように排除する反応です。その意味ではかぶれは目的にかなっていませんが、結果として湿疹が生じてしまいます。アトピー性皮膚炎は、この反応が起こりやすい人に見られる湿疹です。つまり防御反応が過剰に起こってしまっているのです。

### アトピー性皮膚炎の新しい治療

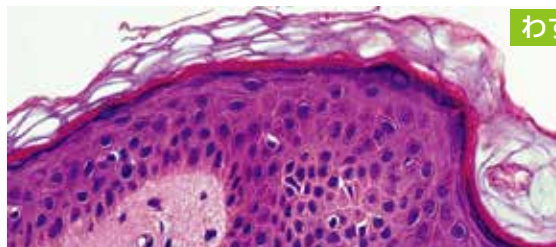
アトピー性皮膚炎の重症度は大きな個人差があります。このことは治療の選択に大きく影響します。軽度の方は、塗り薬のみでコントロールすることができます。しかし中等度から重症では外用薬のみでは対処できないことも多くあります。アトピー性皮膚炎の治療は長い間、新しい薬が出てきませんでした。しかし、最近、生物学的製剤と呼ばれる注射薬や新しい内服薬、さらには外用薬も登場し、治療を一変させました。現在、治験中のももありますので、より大きく変わろうとしています。これまで、治療にお困りになってこられた方々には福音となっておりますので、ぜひご相談ください。

### アレルギー診療

アトピー性皮膚炎は、喘息、アレルギー性鼻炎、食物アレルギー、白内障などさまざまな合併症があります。これらについても呼吸器内科、小児科、耳鼻いんこう科、眼科などの先生方と相談して総合的に診療することが必要となります。

その他のアレルギー性皮膚疾患には、接触皮膚炎（かぶれ）、一部のじんましんなどがあります。これらにも適切な検査と治療があります。

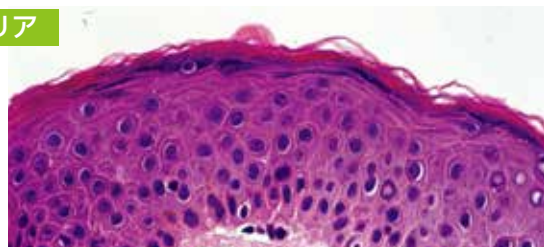
「アトピー外来」は水曜日の午後に行っておりますが、皮膚科・皮膚腫瘍科の一般外来の日でも受け付けます。



わずか0.02mmの角層バリア



瞬間接着剤ではがすと...



皮膚の輪切り。表面の網目状のところは角層で、バリアの働きをします。瞬間接着剤をガラス板に付け、皮膚に押し当てはがす作業を5回繰り返すと、やっと角層をはがすことができます。

### かん せん 乾癬

#### 乾癬とは

乾癬は代表的な慢性の皮膚疾患です。皮膚と免疫の体質によって生じる病気で、厚いフケのようなカサカサが赤い病変に付着するのが特徴です。頭、肘、膝、胸、背中、臀部に見られます。手のひら、足の裏の皮膚も厚くなり、爪もボロボコしたりします。関節痛を伴うこともあります。



▲ 乾癬

#### 乾癬の新しい治療

乾癬の治療には、塗り薬の他に、紫外線療法、内服薬（主に2種類）、生物学的製剤（注射）があります。症状が軽い患者さまは外用薬をまず使います。重症度が高い患者さまは、外用薬のみではコントロールが難しいため、比較的最近使えるようになった内服薬あるいは生物学的製剤（約10種類に増えました）を使います。これらは非常に治療効果が高く、また乾癬に伴う関節炎に対しても有効です。使用前には血液検査などを行い、投与可能であることを確認します。また薬の値段がある程度高いですので、それを勘案して使うこととなります。効果は非常に高いので、お困りの方はぜひご相談ください。

「乾癬外来」は木曜日の午前に行っておりますが、皮膚科・皮膚腫瘍科の一般外来の日でも受け付けます。

『知っていました？ハチ刺されが危ないのは、2回目だけではありません。』



ハチ刺傷（ハチ刺され）は、命に関わることもある危険な怪我の一つです。  
なぜ危険なのかというと、ハチの種類によって毒は異なりますが、毒の中に様々なアレルギーの原因となるたんぱく質が含まれているからです。

ハチに刺されると“とても痛い”ですが、刺された場所の症状（局所の痛みや腫れ）であれば大きな問題にはならないことが多いです。しかし、刺された場所以外の全身症状（皮膚が赤くなる、息苦しくなる、嘔吐や腹痛など）が複数みられる場合には、「アナフィラキシー」といわれる状態ですので、緊急の対応が必要です。

中でも喉がイガイガする、息が苦しく「ゼーゼー」する呼吸をしている場合は、非常に危険な状態です。安静にし、迷わず救急車を呼んでください。

よくハチ刺されは2回目が危ないと言われていますが、実際は1回目であっても危険な症状が出現することがあります。刺された回数より、症状は刺された場所だけなのか、それとも危険な全身症状なのかを見極めることが重要です。命を脅かす症状の多くは刺されてから数分～30分以内に出現します。またその症状は一度改善しても、24時間以内に再び同様の症状が起こることもありますので、経過にも注意していく必要があります。そのため、受診時に自分で車を運転してくることは、とても危険な行為となります。

7月は、ハチが攻撃的になる時期です。ハチや巣に近づかないようにするなど、刺されないように気をつけましょう。

救急外来センター外来 救急看護認定看護師  
高井 純太

お知らせ - information -

年に一度「人間ドック」の受診をおすすめします

健康診断の主な目的は、生活習慣病の予防と悪性疾患の早期発見です。進行性の病気の多くははっきりとした自覚症状がなく徐々に進行します。対策として、定期的に健康診断を受け、体の状態を確認することが大切です。

健康診断の内容は、検査項目が充実している「人間ドック」をおすすめします。

当院の人間ドック・健診センターは、日本人間ドック健診施設機能評価の認定施設であり、令和3年4月には利用される皆さまが落ち着いた雰囲気の中で検査を受けていただけるよう施設内のリニューアルを行いました。



▲ロビーの様子



▲感染対策のとられた食堂

また、人間ドックを受診される方には、管理栄養士監修の“健康食（昼食）”の提供を行っております。

施設内は感染対策を行い、安心して受診していただける環境となっています。

ご自身のお体と向き合う一日を当院の人間ドック・健診センターでお過ごしください。

問い合わせ

人間ドック・健診センター  
0537-28-8028  
(9:00~16:30 土日祝日を除く)

5月の  
診療実績

1日あたりの患者数	病床利用率	76.8%
入院	384人	平均在院日数
外来	1,150人	手術件数
紹介率	84.8%	救命救急センター受診者数
逆紹介率	104.6%	救急搬送件数
		433件

延医  
年食  
転同  
寿源



▲食事

病院だより「きんもくせい」は、中東遠総合医療センター、掛川・袋井両市役所及び一部の市内公共施設にて無料で配布しております。

ホームページ <https://www.chutoen-hp.shizuoka.jp/>

過去の病院だよりをホームページでご覧いただけます。

スマートフォン・タブレットからアクセスする際にはQRコードをご利用ください



〒436-8555  
掛川市菖蒲ヶ池1番地の1  
TEL 0537-21-5555

